

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2871101388		
法人名	医療法人 尚和会		
事業所名	グループホーム ケアホーム宝塚		
所在地	(〒 665-0047) 兵庫県宝塚市亀井町10-51 電話 0797-71-2828		
自己評価作成日	平成22年5月22日	評価結果市町村受理日	平成22年8月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai-go-kouhyou-hyogo.jp/kai_gosip/informationPublic.do?JCD=2871101388&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフ・デザイン研究所
所在地	神戸市長田区萩乃町2丁目2番14-703号
訪問調査日	平成22年 5月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

老人保健施設に併設されており、緊急時の医療体制が充実している。ホーム内は、家庭的な雰囲気を大切にし家具、調度品も、なじみの物を持って来て頂くなど工夫を凝らしている。リハビリ庭園には、四季おりおりの花が植えられており、花を見ながら散歩を楽しんでいる。ケアプランにセンター方式を採用し、担当スタッフが中心となり、本人、ご家族様から情報収集、思いや希望、利用者の会話記録等を通じ、本人主体の思いを引き出し笑顔で過ごせるよう、ご家族様と共に支援している。看護師は毎日居室訪問し、健康面でも安心して生活して頂いている。ホーム内では、ゆったりとした時間を過ごされ、更に定期的な外食、ご家族様を含めた外出行事、施設全体のイベントやコンサート、クラブにも自由に参加できる。ご家族様によるヴァイオリンコンサート、ランチパーティーの時には、畑で採れた新鮮な野菜を持って来て頂くなど、家族様も含めた交流が出来ている。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者主体の取り組みのひとつとして、ホーム内に自治会(九重の会)が作られている。月2回の会合では、定例になったランチパーティのメニューや外出先(遠足)の希望を取る等、意向と要望を出せる機会が作られており、実現のために職員がサポートをしている。日常での楽しみごとの支援としては、買物外出やおやつ作り、個々の趣味への支援の他、併設施設の音楽・華道・手芸・茶道クラブにも、利用者自身が選択して参加できる様にしている。利用者同士、家族同士の関係性も良く、家族の協力のもと、ホームで生き甲斐をもって暮らしている和やかな輪が感じられる。また、家族との連携で開催されるヴァイオリンコンサートも恒例行事となり、利用者の楽しみとなっている。健康面においては、母体法人の宝塚第一病院及び併設の老人保健施設の医師・看護師等との連携が充実・完備されており、利用者・家族・職員も安心できる体制である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)		

自己評価および第三者評価結果

自己 者三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営				
1	(1) ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「であい、ふれあい、えがおの輪」を理念とし、一人ひとりの生き方、その人らしさを尊重し、地域住民と共にパートナーとして支援することを基本方針とし、地域の方々と積極的な交流を図り、施設内の行事、地域の行事への相互参加に努めている。	利用者の一人ひとりの尊厳を守ることをケアの基本としている。主体性を持って生活して頂くために、ホーム内自治会活動や、地域行事への参加、併設施設のクラブ活動を支援している。	
2	(2) ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の賛助会員となり、夏祭りや運動会等地域活動に積極的に参加している。更に幼稚園、小学校の行事の招待を受け、出来る限り参加している。	自治会行事や未成小学校、未成幼稚園、ケアピラ宝塚の行事に参加し、地域の方と馴染みの関係づくりや双方向の交流ができるように支援している。6月に未成幼稚園コーラス隊の訪問がある。	
3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	併設の老健が主催している「まちの保健室」に協力し、血圧測定、骨密度測定、血管年齢測定等を行っている。更に認知症の方の対応の仕方、介助方法等の相談があれば随時説明している		
4	(3) ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長・市役所職員・市立病院地域医療室職員・利用者・利用者家族を委員として2ヶ月ごとに開催し、意見の交換を行っている。今年度より近隣グループホームとお互いの運営推進会議に参加し、意見交換を行い、サービス向上に努めている。	会議にて、災害時の利用者救出について検討した結果、亀井自治会で消防署職員の方から救出方法の指導を受ける予定となった。	
5	(4) ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市主催の行事や研修には、積極的に参加している。宝塚市介護相談員が毎月来所し、ホームの活動状況や入居者の様子、行事への参加や意見交換を行っている。	「こども110番」に参画している。介護相談員と連携して、ケアの質向上に努めている。	
6	(5) ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止マニュアルを作成し、研修会、事例検討会やケアホーム会議等で周知を徹底している。リハビリ庭園、同フロアに併設している通所リハビリテーションやロビーにも自由に出入り出来るよう開放するとともに安全に配慮しながら開放感のあるケアの提供に努めている。	身体拘束の予防に向けて、事例検討方式の職員研修を実施し、ケアの振り返りを促し日々のケアの中で身体拘束に繋がるケアの予防に向けて実践的な研修を実施している。	
7	(6) ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルを作成し、職員全員に周知徹底を図るとともに、施設内研修に参加し、入居者への職員の対応について、常に職員同士で話し合う機会を持っている。	高齢者虐待防止に向けて管理者は、職員からの相談対応ができる体制をとっている。ストレスマネジメント支援をするとともにスタッフルームを設けるなど職員のメンタルヘル스에配慮している。	職場における「労働安全衛生」の活動を拡げ、職員の「心身の健康」を更に促して頂きたい。

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設外研修に参加し、職員間での伝達講習を行い共有を図っている。入居時やキーパーソンの変更時及び家族からの申し出時に検討している。研修で得た情報を活用している。	管理者は、市の主催する権利擁護の研修に参加し、ホーム内で事例検討会を開催する予定でいる。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居を希望される時は、「入居のご案内」のパンフレットに基づき説明後、ホームの雰囲気や体験できるように、施設見学、レクレーション等に参加してもらっている。その後不安、疑問点を確認し、理解を深めると共に共通認識の下、重要事項、利用契約について説明し、了承して頂いている。	契約締結に際しては、利用者と家族に丁寧に説明を行い、納得して頂いた上で契約している。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書にケアホーム宝塚の苦情相談や担当者、市町村の窓口について明記し説明している。ホーム玄関には意見箱を設置し、手順に基づき開封し公表できるようにしている。又毎月来訪される市の介護相談員にも、相談出来る体制である。寄せられた内容は、ケアホーム会議、運営推進会議において検討し、ケアホーム運営の質の向上に反映させている。	年1回、利用者・家族向けアンケートを実施し、ご意見を真摯に受けとめ、ケアの質の向上に活かしている。家族が訪問時に意見を表出しやすい雰囲気づくりを心掛け、年2回の家族会では、管理者が意見を聴き取り、運営に活かしている。現在、宝塚市「共に生きる」展(アピアの参加型巨大市民祭)の主催者より、利用者作品の出展依頼があり、家族と相談している。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り、スタッフカンファレンス(随時)、ケアホーム会議(1回/月)、年間目標の評価時など運営に関する事項について協議・検討し、反映させている。個別面談などいつでも管理者、副施設長と意見交換できるシステムとなっている。	全ての職員は、個人目標を設定し、代表者は1年に1回職員と面談して、意見や提案を聞く機会を設けている。管理者は、随時、職員と意見交換ができる関係づくりが出来ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表をはじめとする業務管理は個人的事情・健康管理の視点で実施し、個人面談では勤務上の悩みやプライベートの悩み等個人の抱える問題を傾聴し、必要時支援しえる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新採用時には資料に基づきオリエンテーションを実施し、現場においては個別対応を基本とした、OJTを実施している。施設外研修に自主参加している。施設内研修は必ず出席できるシステムとし、職員のレベルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護職員対象の研修会への参加、介護支援専門員研修、市社会福祉協議会主催の研修や近隣の他グループホームとの施設間交流や研修会等を図りなど、質の向上に取り組んでいる。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談時にはご家族と共にホームの見学や体験を通して不安の解消に努めるとともに、ホームで生活することへの希望を聴き、入居前から信頼関係の構築に努めている。入居後は担当者(受け持ち制)を決め、職員間で情報を共有し、日常生活に慣れ、感情を表出しやすい雰囲気作りに配慮している。		
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には利用者と共に見学していただき、ホームの雰囲気を体験してもらっている。。担当の介護支援専門員との情報交換や、いつでも、お互い理解しあえるよう話し合う機会がある事を説明し、対応している。		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	医師、看護師も同席し、医療・看護・介護上の視点から、サービス内容を見極め、必要時受診や、介護老人保健施設を紹介し、担当介護支援専門員と情報を共有しながら対応している。		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	基本方針「パートナーとして支援する」ことを基本とし、利用者、職員共に支えあいお互いの持てる力を発揮している。今までの人生において色々な経験をされた方という尊敬の念をもち、先輩に学ぶ姿勢を持って対応している。		
19			○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の生活歴を家族から情報収集し日常生活に取り入れれたり、介護計画立案時には家族の方に参加していただき、ご家族の要望などを伺いながら共に支援している。		
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者が今まで築いてきた、大切な友人や、家族がいつでも訪問しやすい雰囲気作りを心がけ、本人が大切にしてきた人や場所との関係を継続できるように努めている。スタッフと共に、なじみの喫茶店や美容院にも行ける様に支援している。	誰もが訪問しやすい雰囲気づくりを心掛けている。親戚の方や友人、教え子の訪問がある。外食支援先のレストランと馴染みの関係ができています。一人で過ごすことを好まれる利用者には、個別対応で馴染みの喫茶店に同行している。	
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者が自然とテーブルに集まり、日常会話やレクリエーションを楽しんでいる。また、体の不自由な人には手を貸すなど、支えあって生活をしている。職員はその雰囲気作りに努めている。買い物に行く時も、気の合う利用者同士で行ける様に支援している。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時には面会に行き、家族の話を傾聴している。また、退所後も、花見や夏まつり等へ招待している。ご家族様にも一緒に参加して頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当職員が中心となり、入居者とのコミュニケーションを常にとり、希望に沿えるよう支援している。また、家族の意向に応えるよう努めている。困難な場合、本人の立場にたち、話し合いながら支援している。	利用者個々の担当職員が、1対1で会話をする時間を設け、職員全員が本人の思いを共有できるように会話記録を作成して、本人の気持ちに沿った支援をしている。	利用者全員の会話記録を作成されているが、利用者一人ひとりの思いの変化が把握しやすいように個別の会話記録に変更されたらどうでしょうか。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を採用し、本人、家族から情報を収集しこれまでの生活スタイルを尊重しながら、その人らしい生活を送れるよう。最大限の支援をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護職員・看護職員が協力し、日常生活や身体状況、更に有する能力について総合的な現状を把握・評価し、その方にあった支援をしている。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者本人と、家族、スタッフ、看護師、医師等の関係者が、身体的、精神的、社会的視点から意見や情報を交換し、現状に適した介護計画を立案している。	3ヶ月毎に本人、家族、職員、看護師、医師等からの意見・情報を把握し、計画作成者が、本人の状態に合ったケアプランを作成している。変化がある場合は、随時ケアプランを変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の様子やケア実践内容、家族の要望等を日々の申し送りや、会話記録、カンファレンスにて情報共有し介護計画の見直しに反映すると共にカルテに記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	老人保健施設のクラブ活動や季節行事などに参加し、楽しみを共有したり、車での買い物やドライブ、庭園での散歩や花を植えるなど、楽しんでもらえるよう、併設施設の機能を最大限に活用している。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29			○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	幼稚園の運動会や自治会の夏祭り、消防職員、利用者も参加しての消防訓練等、地域行事に参加したり、ボランティアによる音楽会やクラブ活動など、交流を図っている。		
30	(14)		○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設の介護老人健施設に常駐の看護師や、以前から利用しているかかりつけ医との情報交換・連携を図っている。また、緊急時、協力医療機関(宝塚第一病院)の受入態勢が整っており、診察時に状況が把握できるよう、日々記録を徹底している。	以前から利用しているかかりつけ医への受診は家族にお願いしている。受診時の情報提供や付き添いの支援はしている。	
31			○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が毎日健康管理を行っている。併設の介護老人保健施設の看護師は24時間体制で常駐しており、いつでも対応可能である。また必要に応じて訪問看護ステーションの看護師とも連携を図る体制である。		
32	(15)		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には施設Dr.の診療情報提供書、看護介護サマリーを提供している。職員も随時面会に行き、主治医や看護師から入院中の状況や退院後の注意事項等を聞き職員間で共有している。	入院時は、他の利用者からの寄せ書きを届けたり、利用者の不安を軽減するために頻回に面会している。状態を確認して早期退院に向けて、医師、看護師に相談している。	
33	(16)		○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設としての方針のガイドライン、マニュアルを作成し、職員間で共有すると共に、家族への説明を行っている。利用者、家族の意向を考慮しながら個別に対応し、かかりつけ医とも連携を図っている。重度や終末期の利用者がその人らしく生活していただく為に、ホームで出来る事、出来ない事についてカンファレンスを行い、予想される今後の変化について検討し、医師、看護師に情報提供し対応出来るようにしている。	重度化に対応できるように、日頃からかかりつけ医との関係づくりをしている。重度化した場合は、本人・家族と相談しながら、対応している。	
34			○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故防止対策マニュアルは高齢者に多い事故発生時の対応についてまとめてある。カンファレンスや研修会を開催し知識・技術について習得している。人工呼吸や心臓マッサージやAEDの活用について理論と実技を訓練し、急変時や事故発生時に備えている。		
35	(17)		○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルを作成し、施設の防災設備を周知している。年2回の消防訓練は利用者の方も参加し、また地域の消防署の指導も受け実施している。地域の方々にも協力を得るように、行事、研修会に参加していただき理解していただいている。	災害時に備えて、防災マニュアルの作成、定期消防訓練、併設施設の応援体制の整備するとともに、地域の方の協力が得られるように、運営推進会議で相談している。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(18)		○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に尊敬の念を常に持ち接している。人生の先輩に対する言葉使い、声かけや対応の仕方について、入職時のオリエンテーション、OJT、施設内研修の実施により、職員の意識向上に努めている。またこのような研修等を通して利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底にも努めている。	個人の尊重のプライバシーの保護について、職員のレベルに合わせて、段階的な職員研修を実施し、ケアの振り返りができるように自己チェックリストを作成している。全職員は、入職時に守秘義務についての誓約書に署名押印し、徹底している。	
37			○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	受け持ちの担当者が馴染みの関係作りや信頼関係のもと利用者が自分の思いや望んでいる事を表出しやすいよう支援している。又、日々の会話や利用者の思いを会話記録に記録し、スタッフ間で共有している。利用者の能力を把握し、個別的に対応し自己決定への支援をしている。		
38			○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の要望に対し、速やかな対応が出来るよう職員はお互いに協力し合いながら業務をお行い、入居者と共に過ごす時間を作り、希望に沿った支援が出来るよう努めている。又、入居者の行動パターンの把握に基づいた個別対応の実施にも努めている。		
39			○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服の購入や理美容の実施など、本人の希望に沿って出来るよう、職員が家族と共に支援している。又メイク道具などは入居者が以前から使用している物を用いてメイクのお手伝いをしている。併設施設でも定期的に理美容が行われているが、個別にて、なじみの美容院に行ったりもしている。		
40	(19)		○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日のメニューを入居者の記入で提示し、食事の準備や後片付けをする時は、それぞれの役割を決め、全員が関わって楽しく参加している。毎月のランチパーティー、出前、外食は入居者の意見で決め、事前に材料なども職員と共に買いに行っている。バイキングや選択メニューにて好きな副食を選べるような支援も行っている。	毎日のメニューは、盛り付けや彩も見た目もおいしい食事を心がけ、季節感も大切にしている。毎月のランチパーティーのメニューづくりや買い出しから調理、あと片付けまで協働している。ホーム菜園で収穫した野菜で漬物づくりや、果樹園で収穫した柿で干し柿づくり等、本人の出来る力を活かした楽しみごとの支援もしている。	
41			○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりの栄養状態や嚥下状態を把握し、食べやすい食事形態にしている。高カロリーゼリーや経口栄養剤なども利用し体重の増減の把握に努めている。水分量をチェックし、一日の摂取量を把握している。摂取量が少ない場合はスタッフ間で情報共有し、管理栄養士とも相談の上、必要量が摂取出来るよう支援している。		
42			○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時の嗽、毎食後の歯磨き、嗽、就寝後の入れ歯洗浄を確実に実施している。自力で出来ない入居者には職員がブラッシングなどで支援している。マウスウォッシュ等も利用し、口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	生活リズム・パターンシートの取り入れや、入居者の排泄リズムを把握し、トイレでの排泄に向け誘導、介助に努めている。	現在、利用者全員がトイレで排泄している。排泄の自立が継続できるように、一人ひとりにあった声掛けにて、トイレ誘導をしている。排泄・水分摂取量の把握が必要な方は、記録をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行うとともに、水分補給や食物繊維の多い食事、腹部マッサージ、リハビリ体操等を取り入れ、自然排便に繋がるように努めている。それでも便秘が改善しない時は看護師に相談し、必要な処置を行っている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者の希望にあわせ入浴の曜日や時間帯を決めている。又、それ以外でも、本人から入浴の希望があった時や、排泄で汚れた時にはいつでも入浴可能(24時間給湯可能)。他にはトロン温泉や行事湯(菖蒲湯、ゆず湯など)を楽しんで頂いている。	本人の気分やタイミング、体調、希望に沿って、入浴の支援をしている。入浴が楽しみな時間となる様、介助者との個別の会話の機会と捉えコミュニケーションを図っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	職員は利用者の起床時間・入眠時間を把握し、入眠し易い様、活動的に日々過ごして頂いて。また、入眠しやすい様に温かい飲み物を19時に提供。入眠できない利用者には、ゆっくりした気持ちで過ごせるよう話の傾聴などの支援をしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は各利用者の薬の効能・副作用について周知し病状の早期発見に努めている。配薬・服薬確認の徹底をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者が今までの人生の中で培った知識や得意とする事を日常的な役割(係り)として持っていたり、日々の生活の中で輝けるように支援している。今年は利用者の知恵を借り、干し柿や糠漬けなど実施。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設のシャトルバスを使用し、外出やドライブ、買い物などに行き、楽しませている。地域行事にも積極的に参加し、散歩時には近隣住民との交流を図り、喫茶店等も利用したり、時には幼稚園にも訪問している。また、家族と定期的にドライブ、食事等、外出される利用者もいる。	本人の希望や生活歴の継続を大切に、お墓参りや行きつけの美容室等への外出を支援している。日常的には、近隣への散歩やホーム内のリハビリ庭園の散歩や、野菜や花の水やり等、日々外出できるように支援している。	

自己	者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の能力と心理的に安心できる範囲での金額をご家族と職員の了解の下に自己管理する事を基本とし、所持していただいている。日々の生活の中で買い物や公衆電話・自動販売機などを利用していただいている。		
51		家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人と手紙を定期的に行き取りされる方はスタッフとポストまで散歩を兼ね投函しに行ったり、スタッフと共に公衆電話を利用して家族へと電話をする等、個々に応じた支援を行っている。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングからはリハビリ庭園が見渡せ、四季折々の花が咲き、小鳥が飛んできたりするのを見て楽しまれている。共用の空間にも、協同作品や四季の写真、季節に応じたお雛様や五月人形を飾り、季節感を演出している。	リビングは、昼間は太陽の光が入るように設計されている。ホーム庭園は、リビングから出入りできるようになっており、庭園でお茶を楽しんだり、リハビリ庭園の散歩を楽しめる。廊下には、法人の担当医が撮影した季節ごとの風景の写真を掲示している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者で話したり、家族とゆっくりと談笑できるようリビングにはソファや椅子、テーブルが置いてある。百人一首、塗り絵、読書、ピアノを弾く人等、ご自分のペースで、思い思い過ごして頂いている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具や馴染みの調度品を置き、又スタッフが利用者や相談の上、居室の模様替えをしたり、華道の花や季節の写真を飾るなど本人が居心地良く暮らせるよう工夫している。	本人の好みや生活歴を大切に、季節ごとの模様替えの支援や、現在の心身面の状態に合った家具を家族に相談して購入して頂いている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ケアプランにセンター方式を採用し、利用者一人ひとりの能力が活かせるよう、趣味、得意とする事を取り入れ、楽しみながら身体機能が維持出来るように取り組んでいる。		